

チャイコフスキー物語

天才の一生というものは実に数奇なものでして、音楽家として例外ではございません。

日本で大人気の作曲家の一人にチャイコフスキーさんという人がいらっしゃいます。本日のお話クラシックで、この大作曲家の生涯をご紹介します。

ところで、チャイコフスキーさんを、ご存じのお客様どのくらいいらっしゃいます？ちょっと拍手をしてみてください。

(拍手を聞いて)

ありがとうございます。

ご存じない方も、これは聞いたことがあるんじゃないでしょうか？

①-(1) 組曲「白鳥の湖」より「I. 情景」(冒頭～Ⅱの手前で突然終わる)

(曲が止まって)

これは、チャイコフスキーさんの作曲したバレエ「白鳥の湖」の1曲です。

「ああ、この曲なら知っている」という方は拍手をお願いします。

(拍手を聞いて)

やっぱり、チャイコフスキーさんは、すっかりおなじみの人のようですね。

そんな、チャイコフスキーさん、名前をピョートルくんといまして、生まれたのは1840年、ロシアのウラル地方で産声を上げました。小さいころより音楽的才能を発揮するも、お父様は、

(父親の声色で)

「音楽では飯は喰えぬ！」

と、10歳のチャイコフスキーさんをサンクトペテルブルグの法律学校へ入学させたのでございます。

かわいい息子の成長を心待ちにしておられたご両親でありましたが、彼が14歳になった時、お母様が40歳の若さでこの世を去ってしまわれます。当時、「はやり病」と恐れられた「コレラ」が原因でありました。

(すぐに)

①-(2) 組曲「白鳥の湖」より「I. 情景」(Ⅰ～最後まで。突然 ff で始まる)

(Ⅰの9小節目のアウフタクトから8小節間で、但し、ダイナミックスは1段階落として)

幼いチャイコフスキーさんにとって、それはそれはショッキングな出来事でありましたが、寂しさに耐えながら、法律の勉強を通じたチャイコフスキーさんは、ご両親の願いどおり、お国のお役人になられたのでございます。(ここまで曲とかぶせる)

(演奏が終わって)

しかし、チャイコフスキーさんは音楽への思いが募るばかり。21歳になった時、ついに音楽学校への入学を果たすと、しばらくして役所の仕事も辞めてしまい、それからというもの、話せば長く切ない音

楽の道を歩むこととなったのでございます。

こうして音楽を猛勉強。3年後には、ついに交響曲第1番を完成させました。

② 交響曲第1番「冬の日の幻想」第2楽章（冒頭～□の前まで）

（弦楽器にメロディが移って）

交響曲第1番「冬の日の幻想」第2楽章のはじめの部分です。どうです。美しいでしょう。うっとりでしょう。チャイコフスキーさんの魅力は、何と云って美しいメロディ。日本人好みの、時に切なく、時にドラマチックな旋律でございます。

（演奏が終わって）

また、この年には、初めてのオペラを作曲するなど大活躍。

その姿が高名なピアニストの目にとまり、モスクワ音楽院の先生としてむかえらることとなりました。

作曲家として華々しいスタートを切ったかのように見えたチャイコフスキーさんでしたが、オペラ歌手のアルトーさんとの恋の花は、結婚を目前にして、はかなくも散ってしまうという悲しい結末に。奇しくも明治元年、遠くはなれた日本で、文明開化の音のする頃でした。

③-① ピアノ協奏曲第1番 第1楽章（冒頭～7小節の2拍目、ヴァイオリンの旋律の手前まで）

（オーケストラストップモーションのまま。ピアニストは派手に腕を上げておく。）

その7年後に作曲したのがこの曲。そう、有名なピアノ協奏曲第1番。今では名曲といわれるこの曲ですが、当時、親友のピアニスト、ニコライ・ルビンシテインさんにひどい言われよう。

（声色に敵意を出して）

「こいつは実に退屈でつまらんし、かっこわるい。役立たずのガラクタみたいだ。みっともない上に、演奏不可能！」

って具合でした。

（声色を悔しがる少年のように）

「このやろう！」

って、それでもチャイコフスキーさんはめげません。こっそり、ドイツの人気ピアニスト、ハンス・ビューローさんに、その楽譜を送ってしまっちゃったんです。それで、ビューローさん、アメリカのボストンで初めてこの曲を弾いたら、大好評！ヨーロッパ各地でも大成功！ついに、あれだけけなしにけなししたルビンシテインさんも、

（声色を申し訳なさそうに）

「ピョートル、あんなひどいこと言ってごめん」

って謝るはめになったのでございます。

（ストップモーションから、すぐに）

③-② ピアノ協奏曲第1番 第1楽章（演奏の続き～24小節の1拍目）

(演奏が終わって)

洋の東西を問わず、今も昔も「音楽で飯を食う」っていうのはそんなに楽な話じゃありませんが、ピアノ協奏曲が成功した翌年、なんとチャイコフスキーさんに「お金を寄付したい」という女の人があられたから、びっくり。

1877年のこと。彼の音楽に恋をした鉄道王の未亡人。名をナジェンダ・フォン・メックさんとおっしゃいます。亡き夫の莫大な財産を、素敵な音楽を届けてくれる愛しい作曲家のために、その後14年間にわたって送り続けたのでございます。

年間6000ルーブルっていうから、献金まみれの代議士の先生だっておどろき。それでも、メックさんは何にも見返りを求めたりしません。だって実際の話、その間、二人は一度も会うことがなかったのですから。

最初の寄付があった翌年はチャイコフスキーさんにとってずいぶんとひどい年でした。

結婚に失敗して、落ち込んだじゃって……最悪だったのは川に飛び込んで自殺しそうになったり。

とってもまじめな性格ですから、思いつめちゃうと、もうどうにも止まらない。

それでもやはり天才作曲家。そんなこんなのに完成したのが、何を隠そうバレエ音楽、あの「白鳥の湖」でした。

④ 組曲「白鳥の湖」より「Ⅲ. 小さな白鳥たちの踊り」(全部)

(演奏が終わって)

でも、チャイコフスキーさん、やっぱり心が病んでしまいました。このあと10年間、大曲の作曲から遠ざかってしまいます。

でも、そんなときこそ「小さなことからコツコツと」でございます。決して大曲ではありませんが、名曲がちゃあんと生まれております。例えば、弦楽器だけで演奏するこの曲。

⑤ 弦楽セレナーデ 第1楽章 (冒頭～15小節まで)

(曲が終わってすぐ)

まさか120年以上経って、人材派遣会社のコマーシャルになるなんて思っただけで済んだでしょうが。

さてさて、大曲の作曲から遠ざかること10年。満を持して書きあげた大曲が一

(声色、囁くように)

「待ってました！」

交響曲第5番 木短調。

⑥ 交響曲第5番 第4楽章 (冒頭～㊦の2小節まで)

(音楽 (24小節～) に重ねて)

心はぐったりして、ふさぐ日も多かったようでございます。頭の中に音楽が鳴らなくなって、10年間

もの長い長いブランク。交響曲なんて無理無理。でも、後々、この10年間はチャイコフスキーさんにとって大きな肥やしとなるのです。ヨーロッパ演奏旅行の大成功！何よりも、マーラー、リヒャルト・シュトラウス、グリーグという若い作曲家たちに出会い、たくさんたくさん刺激を受けて、だんだん元気を取り戻し、ついには、この交響曲第5番、今に残る名曲を作曲することができたのでございますから。

(演奏が終わって)

バレエ「眠れる森の美女」を作曲したのもこの年、1888年。8が3つも並ぶ末広りの年でありました。チャイコフスキーさん、ここに完全復活！

⑦ バレエ「眠れる森の美女」第1幕より「6. ワルツ」(全体)

(39小節あたりから曲に重ねて)

チャイコフスキーさんは、ヨーロッパ演奏旅行に再び出かけると、各地で大喝采。時代の売れっ子作曲家のバレエ。得意な美しいメロディラインは、女心をくすぐります。実はこの時、その昔、結婚の約束までしたかつての恋人、アルトーさんとドイツのライプチヒでばったり再会、昔を懐かしむ日々。過ぎ去りし日は美しくもあり切なくもあり……

(演奏が終わって)

やがて50代を迎えるチャイコフスキーさん、3つ目のバレエ音楽を作曲します。それが、「くるみ割り人形」です。3大バレエ最後の作品です。

⑧ 組曲「くるみ割り人形」より「2. 行進曲」(全曲)

(演奏が終わって)

この年、チャイコフスキーさんはアメリカのカーネギーホールのコケラ落しに出演するほどの引っ張りダコでした。

そして、時は過ぎ、バレエ「くるみ割り人形」の完成から2年後の1893年、円熟の域に入りこんだチャイコフスキーさんは、ご本人も絶賛する交響曲第6番を書きあげます。でも、この交響曲ずいぶんと風変わりでございます、第4楽章がこんな感じで……。

⑨ 交響曲第6番「悲愴」第4楽章(Ⅸ～最後)

(演奏が終わって、しんみりと)

どうです、みなさん。これが交響曲第6番の最後の最後です。ずいぶん暗いでしょ。それで、つけられたタイトルが「悲愴」。悲しすぎます。その名にふさわしく、消え行くように終わるのでございます。まるで、ろうそくの灯が細く細くなって、最後には消えてしまうように……。

(少し間をおいたのち、少し声のトーンを落として)

そして、この曲の発表から9日後の1893年11月6日、チャイコフスキーさんも、まるでろうそくの炎が消えるかのごとく、この世を去っていきました。

彼の死もまた、お母様同様にコレラが原因でありました。

享年53歳。

北の大地に、厳しく長い冬が始まって間もない頃でございました。(しんみりと rit して終わり)

(最後が2案あります)

1案=しんみり寂しく終わる案。

⑩ 交響曲第6番「悲愴」第1楽章 (Andante~Allegro vivoの前まで、最後は、FgではなくBsClで)

【ライトはだんだんと暗くなる~最後はクラリネットにスポット~おしまい】

(または)

2案=ドラマチックに終わる案。

⑩ バレエ「白鳥の湖」より「終曲」(23~最後まで、ハープはピアノで)

【ライトは演奏終了後、すぐに落とす~おしまい】

使用楽曲

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ① 組曲「白鳥の湖」より「I. 情景」 | — (2分55秒 (0:55+2:00)) |
| ② 交響曲第1番「冬の日の幻想」第2楽章より | — (1分30秒) |
| ③ ピアノ協奏曲第1番 第1楽章より | — (0分52秒 (0:11+0:41)) |
| ④ 組曲「白鳥の湖」より「Ⅲ. 白鳥の踊り」 | — (1分25秒) |
| ⑤ 弦楽セレナーデ 第1楽章より | — (0分43秒) |
| ⑥ 交響曲第5番 第4楽章より | — (2分30秒) |
| ⑦ バレエ音楽「眠れる森の美女」第1幕より「6. ワルツ」 | — (4分30秒) |
| ⑧ 組曲「くるみ割り人形」より「2. 行進曲」 | — (2分20秒) |
| ⑨ 交響曲第6番「悲愴」第4楽章より | — (4分00秒) |
| ⑩ 交響曲第6番「悲愴」第1楽章より | — (2分30秒) |
| o r | |
| ⑩ 組曲「白鳥の湖」~「終曲」より | — (2分30秒) |